
虚無

零桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虚無

【Nコード】

N4211B

【作者名】

零桜

【あらすじ】

何もしない。何も感じない。考えることもない…はずだった。何かが変わった。私も、周りも…。何も考えたくない人に、全てに疲れた方へ贈る私の渾身の作品。

(前書き)

自殺に興味のある方は読むのを避けることをお勧めします(笑)

私は一体誰なんだろう。

脳が思考を始める。まるでパソコンのように私が思っていることを考え始める。

もう何年もの間考えてきた。

もしこれが全部誰かの夢の中で、私という存在が想像だったら……？

それともゲームの世界の話で何度もリセットされるものなら？

怖い。恐い。こわい。コワイ。

私という存在が、この身体が、この精神が、何もかもが。

ああ…また誰かが私に話しかけている。でも私は、応えることが出来ない。

いつもそうだ。私は応えることが出来ない。私は応えない。

何かが違う。

私を違う私が見ているような感覚。とても不思議な感覚。

なにかがオカシイ。

私が私であるなら、私という存在は一体何の為に在るのか。

私が今座っているこの椅子は、実際に存在するのか。

私が今いる場所は、家は事実、自分の眼が映した通りなのか。

本当は真つ暗闇の中に、独りで座っているだけなんじゃないか。

唯、脳が勝手に想像しているだけに過ぎないのなら…？

目の前に在る生きとし生けるもの全てが、唯の創造物なら。神の気まぐれの産物だとしたら。

もし全てがそうでも、私のすることはきっと変わることはないだろう。何故ならこれはどうしようもないことで、私ごときに変えられないことなのだから。

そうして私は、また椅子に座って、部屋を見つめ続ける。何をする

でもなく…。

唯、感情のない瞳で私の家族を見続ける。

それから数日後、私の思考は全て停止した。

誰かが、私を寺に持っていき、燃やしたのだ。私の他にも、沢山の動くことのないもの達が山積みになっていた。

沢山・たくさん・タクサン…。

もう何も余計なことを考えずに済む。感じなくて済む。だから、私を大切にしてくれた皆さん。さよなら。

つぎは、命に限りがあるものに生まれたい。

人形じゃなくて…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4211b/>

虚無

2010年10月11日01時02分発行